防災特集
9月1日は防災の日

その時、あなたは何をしますか？

標茶町は、近年立て続けに大雨洪水災害に見舞われています。世界的な気候変動により、今後も同様の事態が想定されます。いつ来るかわからないその時に備えましょう。

自助・共助・公助の連携で災害に強い標茶町を作りましょう！

災害発生時には、自助・共助・公助が、それぞれの役割を果たすことが必要です。予断を許さない状況においては、住民自身が協力して自分たちの身を守る「共助」が防災の要と言われています。

自助…災害発生直後は**自らの身は自分で守る**しかありません。災害に関する知識を身につけ、災害に対する備えをすることが必要です。

共助…災害発生時の初動活動は大切です。隣近所や、町内会などが協力し、助け合いましょう。

公助…役場、消防などによる支援活動を言います。

自主防災組織を作りましょう

災害時の予断を許さない状況では、自分たちで自らの安全を守り、隣近所の人たちと協力し、被害に遭った人たちを救助しなければなりません。

そのために町内会などで組織される自主防災組織の役割が重要になります。

標茶町内では、現在、11の町内会・地域会で自主防災組織を設立し、活動しています。

今年3月の大雨融雪災害の際、開運町内会自主防災組織、麻生町内会自主防災組織で、自主避難所を開設しました。

ぜひ各町内会、地域会におかれては、自主防災組織設立の検討をお願いします。

避難発令について

危険レベルにあわせ、それぞれ発令されるものです。

標茶町では、平成28年8月、平成30年3月の大雨災害時に、初めて発令されました。

いつまた発生するかわからない災害に備え、事前に各避難発令の内容を確認しましょう。

避難準備・高齢者等避難開始

災害発生の可能性が高まった場合に発令。避難行動に時間を要する人が避難行動を開始しなければならない段階です。

避難勧告

被害の拡大が予想され、事前に避難を要する必要がある場合に発令。避難を促す行為です。

避難指示（緊急）

危険が目前に迫っている場合に発令。直ちに避難を求める行為です。

河川氾濫危険レベルについて

水防団待機水位

水防団などが出動準備に入る水位。

氾濫注意水位

災害のおそれがある水位。水防団等が出動します。

避難判断水位

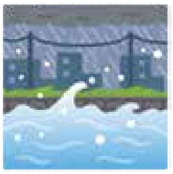
避難準備・高齢者等避難開始の発令基準。

氾濫危険水位

避難勧告などの発令基準。河川氾濫の恐れがある水位です。

計画高水位

堤防が耐えうる限界水位。これを超えると、いつ決壊してもおかしくない状況です。



釧路川水害タイムラインを作成中です

標茶町では、現在、釧路川の氾濫に備えた、多機関型の「水害タイムライン（事前防災行動計画）」を作成中です。

昨年11月に釧路開発建設部、釧路地方気象台他12の関係機関で検討会を設立し、本年9月中の完成を目標に作業を進めています。

※タイムラインとは、釧路川の氾濫が発生するまでの間に、関係機関や町内会、住民が、どのタイミングで、どの様な行動を必要とするかを事前に時系列に整理した計画です。急な判断が迫られる災害時に、それぞれの行動や判断をサポートし、各行動の漏れを防ぎ、被害を最小限に抑えることを目的としたものです。

避難指示発令に関する住民アンケートの結果について

今年3月の大雨洪水災害後、避難指示発令地区にお住まいの方を対象にアンケート調査を行いました。アンケートの全容については、町ホームページ（アドレスは24ページ参照）に掲載しています。

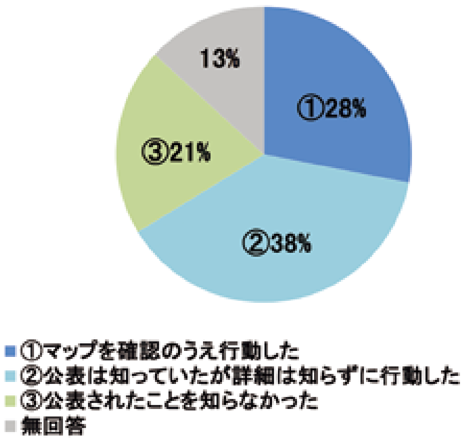
問1

3月の大雨の前に、新しい浸水ハザードマップを公表しました。今回、あなたは、新たな浸水ハザードマップを確認し、行動しましたか。

結果

約3割の方は、マップを確認して行動していましたが、約4割の方は、マップの公表は知りつつも詳細を知らずに行動し、約2割の方はマップが公表されたことを知りませんでした。

ハザードマップや防災ハンドブックを多くの方に周知し、避難に対する理解の向上を図る必要があります。



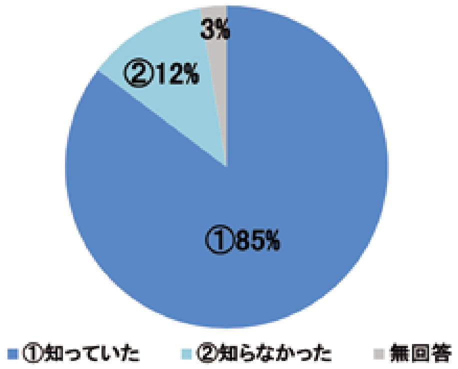
問2

「避難準備・高齢者等避難開始」「避難勧告」「避難指示（緊急）」が発令されましたが、それらの違いを知っていましたか。

結果

約9割の方が「避難準備・高齢者等避難開始」「避難勧告」「避難指示（緊急）」の違いを認識し行動していました。しかし、約1割の方は、それらの違いを認識していませんでした。

「避難準備・高齢者等避難開始」「避難勧告」「避難指示（緊急）」の違いがわかるよう情報の周知が必要です。



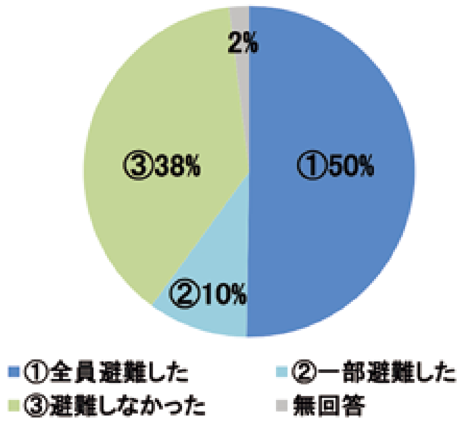
問3

あなた（あなたの世帯）は避難しましたか。

結果

約6割の方は全員または一部避難していました。しかし、想定される浸水の状況により、地区によってばらつきがみられ、約4割の方が避難していない状況でした。

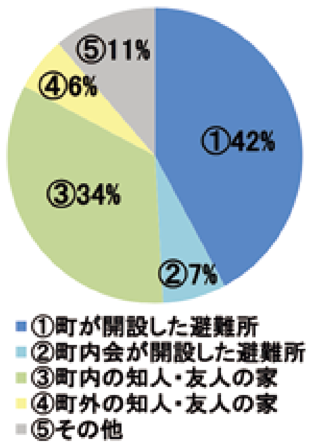
大雨時における釧路川の氾濫に備えて、浸水の恐れがある地域の方が避難できるよう対策が必要です。



問4

今後再び「避難勧告」が出された場合、どこに避難しますか。

結果

今後避難勧告などが発令された場合の避難先について、今回と同様に、約4割の方が町が開設した避難所へ避難し、約4割の方が町内外の知人・友人宅へ避難する意向でした。

皆さんのご意見を踏まえ、避難所開設・運営に向けた体制を強化するとともに、町内外へ避難した場合の避難先の把握方法を検討する必要があります。